



2023年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年4月7日

上場会社名 日本エンタープライズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4829 URL https://www.nihon-e.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植田勝典
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 田中勝 TEL 03-5774-5730
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年5月期第3四半期の連結業績（2022年6月1日～2023年2月28日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第3四半期	3,129	5.3	122	129.4	131	116.7	60	-
2022年5月期第3四半期	2,971	-	53	-	60	-	△4	-

(注) 包括利益 2023年5月期第3四半期 73百万円 (819.9%) 2022年5月期第3四半期 8百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第3四半期	1.58	-
2022年5月期第3四半期	△0.12	-

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を前第1四半期連結会計期間の期首より適用しており、2022年5月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値であることから、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年5月期第3四半期	5,603	4,881	84.7	123.09
2022年5月期	5,664	4,892	84.0	123.50

(参考) 自己資本 2023年5月期第3四半期 4,743百万円 2022年5月期 4,759百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	-	0.00	-	2.00	2.00
2023年5月期	-	0.00	-	-	-
2023年5月期（予想）	-	-	-	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年5月期の連結業績予想（2022年6月1日～2023年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300	7.0	195	89.9	200	29.9	100	39.6	2.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年5月期3Q	38,534,900株	2022年5月期	38,534,900株
② 期末自己株式数	2023年5月期3Q	－株	2022年5月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年5月期3Q	38,534,900株	2022年5月期3Q	39,888,746株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信（添付資料）2ページ以降の「経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ウクライナ情勢の長期化や原材料価格の高騰による物価上昇等、不透明な状況が続いているものの、働き方改革及び在宅勤務（テレワーク）の浸透並びに業務プロセスの効率化等のDX（注1）の推進によりITサービスの需要は堅調に拡大しております。

これらの状況において、当社グループといたしましては、クリエイション事業（コンテンツサービス、ビジネスサポートサービス等）及びソリューション事業（システム開発・運用サービス）を推進し、事業規模及び収益拡大に努めてまいりました。

各セグメントの経営成績は次のとおりであります。

<クリエイション事業>

自社で保有する権利や資産を活用したサービスを提供する当事業は、一般消費者向け「コンテンツサービス」においては、通信キャリアが運営するプラットフォームで提供する定額制コンテンツにおいて女性向け健康サポートコンテンツが牽引・増進いたしました。月額コンテンツ及び通信キャリア以外が運営するプラットフォームで提供するコンテンツの減少を補えず減収いたしました。

法人向け「ビジネスサポートサービス」においては、企業による業務効率化やクラウド活用が進む中、交通情報・音声・調達・観光・教育等の各種サービスの他、自社開発のサービスを活用した受託開発に注力いたしました。一方で、キッティング支援において、前第1四半期連結累計期間における特需の剥落や第2四半期連結累計期間におけるサプライチェーンの停滞によるスマートフォンやタブレット等新規端末不足の影響等に伴い、減収いたしました。

以上の結果、クリエイション事業の売上高は12億12百万円（前年同四半期比10.9%減）、セグメント利益は2億87百万円（同11.2%減）となりました。

<ソリューション事業>

法人向けシステムの受託開発・運用を主な業務とする当事業は、「システム開発・運用サービス」においては、働き方改革及び在宅勤務（テレワーク）の浸透並びに業務プロセスの効率化等、近年需要が高まっているDXの促進により、AI（注2）やIoT（注3）等、様々な技術を組み合わせたシステム開発の需要が増大する中、スマートフォンアプリ及びサーバ構築の豊富なノウハウと実績が評価され、スクラッチ開発（注4）を中心としたアプリ開発、WEB構築、サーバ構築、システム運用・監視、デバッグ、ユーザーサポート、販売促進等クリエイション事業で培ったノウハウを活かした受託開発が大きく増進いたしました。

人手不足問題にマッチした業務支援サービスは、大手通信キャリアを中心に積極的な営業強化及び高度人材の継続的な獲得・育成に注力し、既存顧客への深耕と新規顧客の獲得を推し進めた結果、増勢に推移いたしました。

今後拡大が見込まれる端末周辺サービスは、パートナー企業との連携を推し進め、増勢に推移いたしました。特に、中古端末（スマートフォン等）買取販売においては、当第3四半期連結会計期間から新規端末不足が回復基調に推移する中、企業のIT投資意欲と持続可能な社会構築への意識の高まりを背景に増進した他、新型コロナ対策商材においては、感染リスクの低減・拡大防止・予防に対する社会的ニーズが引き続き高い中、抗菌・抗ウイルス性能を有するガラスコーティング剤の拡販に注力してまいりました。

以上の結果、ソリューション事業の売上高は19億16百万円（前年同四半期比19.0%増）、セグメント利益は2億47百万円（同30.1%増）となりました。

<連結決算の概況>

当第3四半期連結累計期間における売上高は31億29百万円（前年同四半期比5.3%増）、営業利益は1億22百万円（同129.4%増）、経常利益は1億31百万円（同116.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は60百万円（前年同四半期は4百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

売上高については、キッティング支援及びコンテンツサービス等クリエイション事業が減少したものの、受託開発、業務支援サービス、端末周辺サービス等ソリューション事業が増勢に推移した結果、増収いたしました。

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益については、売上高の増収の他、コストの低減に努めた結果、増益いたしました。

- (注1) 「Digital Transformation」の略
「ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。
- (注2) 「Artificial Intelligence」の略
人間の知的営みをコンピューターに行わせるための技術。いわゆる「人工知能」。
- (注3) 「Internet of Things」の略
モノをインターネットに接続して制御・認識等を行う仕組みを意味する。
- (注4) システム開発で、特定のパッケージ製品のカスタマイズや機能追加等によらず、すべての要素を個別に最初から開発すること。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して61百万円減少し、56億3百万円となりました。流動資産は、主に現金及び預金の減少、その他（前払費用等）の減少、売掛金及び契約資産の増加及び仕掛品の増加により前連結会計年度末と比較して2百万円減少し、49億50百万円となりました。固定資産においては、主に有形固定資産及び無形固定資産の減少により前連結会計年度末と比較して58百万円減少し、6億53百万円となりました。

負債につきましては、主に買掛金の増加、賞与引当金の増加及び流動負債のその他（未払金等）の減少により前連結会計年度末と比較して49百万円減少し、7億22百万円となりました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上がありました。剰余金の配当により前連結会計年度末と比較して11百万円減少し、48億81百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月期の連結業績予想につきましては、2022年7月14日公表の連結業績予想値に変更はありません。

引き続き、クリエイション事業（コンテンツサービスの新たな施策やキックオフ支援への注力等）、ソリューション事業（DXの推進によるITサービスの需要拡大に伴う受託開発、業務支援サービス、端末周辺サービスの拡大等）に注力することで、増収増益を目論んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,218,764	4,190,793
売掛金及び契約資産	647,118	674,620
商品	11,195	12,528
仕掛品	7,921	12,119
貯蔵品	195	205
未収入金	9,690	8,865
その他	58,347	51,057
貸倒引当金	△599	△86
流動資産合計	4,952,634	4,950,104
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	25,717	26,637
機械及び装置（純額）	261,017	243,304
土地	12,400	12,400
その他（純額）	12,442	8,749
有形固定資産合計	311,578	291,091
無形固定資産		
ソフトウェア	210,450	179,681
その他	9,656	7,250
無形固定資産合計	220,107	186,932
投資その他の資産		
投資有価証券	52,196	52,196
差入保証金	83,007	79,458
繰延税金資産	42,301	40,382
その他	2,350	2,956
投資その他の資産合計	179,855	174,994
固定資産合計	711,540	653,017
資産合計	5,664,175	5,603,122

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	138,640	160,200
1年内返済予定の長期借入金	23,496	23,496
未払法人税等	40,739	31,881
未払消費税等	43,268	48,163
契約負債	36,816	30,058
賞与引当金	—	23,092
役員賞与引当金	—	3,070
その他	249,562	175,755
流動負債合計	532,523	495,719
固定負債		
長期借入金	183,403	165,781
退職給付に係る負債	43,009	48,304
その他	12,252	12,276
固定負債合計	238,665	226,361
負債合計	771,188	722,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,108,338	1,108,338
資本剰余金	984,894	984,894
利益剰余金	2,665,952	2,649,867
株主資本合計	4,759,185	4,743,100
新株予約権	1,435	1,284
非支配株主持分	132,366	136,656
純資産合計	4,892,986	4,881,041
負債純資産合計	5,664,175	5,603,122

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)
売上高	2,971,837	3,129,614
売上原価	1,739,968	1,866,734
売上総利益	1,231,869	1,262,880
販売費及び一般管理費	1,178,407	1,140,257
営業利益	53,461	122,622
営業外収益		
受取利息	67	79
受取配当金	32	—
補助金収入	5,524	5,203
受取賃貸料	999	999
受取手数料	720	3,436
業務受託手数料	450	450
為替差益	122	44
その他	2,796	838
営業外収益合計	10,711	11,051
営業外費用		
支払利息	1,833	1,637
支払手数料	1,576	319
その他	23	72
営業外費用合計	3,433	2,029
経常利益	60,740	131,644
特別損失		
固定資産除却損	309	—
特別損失合計	309	—
税金等調整前四半期純利益	60,431	131,644
法人税、住民税及び事業税	56,095	55,986
法人税等調整額	△4,995	1,919
法人税等合計	51,099	57,905
四半期純利益	9,331	73,739
非支配株主に帰属する四半期純利益	14,095	12,754
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,763	60,985

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益	9,331	73,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,314	—
その他の包括利益合計	△1,314	—
四半期包括利益	8,016	73,739
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△6,078	60,985
非支配株主に係る四半期包括利益	14,095	12,754

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間において、株式会社アップデートサポートを設立し子会社化したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	クリエイション 事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,361,220	1,610,616	2,971,837	—	2,971,837
セグメント間の内部売上高 又は振替高	100	23,202	23,302	△23,302	—
計	1,361,320	1,633,819	2,995,139	△23,302	2,971,837
セグメント利益	324,196	189,836	514,032	△460,570	53,461

(注) セグメント利益の調整額の主なものは、各事業セグメントに帰属しない管理部門等の一般管理費△460,570千円であります。

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「クリエイション事業」の売上高は18,788千円増加し、「ソリューション事業」の売上高は51,586千円増加しております。また、「クリエイション事業」のセグメント利益は14,354千円増加し、「ソリューション事業」のセグメント利益は10,844千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	クリエイション 事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,212,881	1,916,733	3,129,614	—	3,129,614
セグメント間の内部売上高 又は振替高	120	9,337	9,457	△9,457	—
計	1,213,001	1,926,070	3,139,072	△9,457	3,129,614
セグメント利益	287,831	247,007	534,838	△412,216	122,622

(注) セグメント利益の調整額の主なものは、各事業セグメントに帰属しない管理部門等の一般管理費△412,216千円であります。

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。